



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

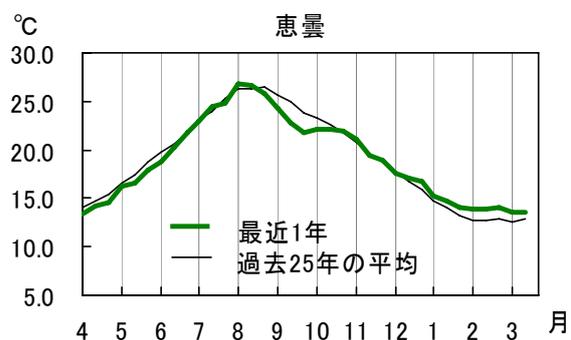
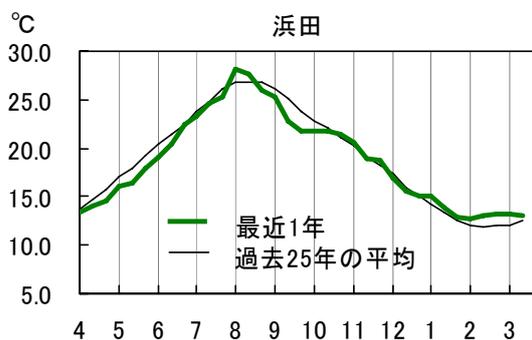
(TEL 0855-22-1720)

《2-3月の海況》

2月	月平均	平年差	評価
浜田	13.0℃	+1.0℃	かなり高め
恵曇	14.0℃	+1.2℃	かなり高め

沿岸定地水温は、2月は浜田、恵曇とも平年よりかなり高めとなりました。3月に入ってから浜田、恵曇とも平年より高めに推移しています。

(※今月号から平年値の計算を過去10年から過去25年に変更しました。)


 《2月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田は前月と同様にマサバ中心の漁況で漁獲量、金額はそれぞれ平年の1.1倍、9割でした。浦郷はマサバ、マアジを主体に漁獲量、金額はそれぞれ平年の1.2倍、1.7倍と好調でした。西郷も浦郷と同様にマサバ、マアジを主体に漁獲量、金額はそれぞれ平年の1.3倍、2倍と好調に推移しました。

【イカ釣漁業】

浜田港(属地5トン以上)ではスルメイカ中心の漁況で、漁獲量は不漁であった前年の1.6倍となったものの平年比では平年並に留まり、漁獲金額は単価が低かったこともあり平年の8割となりました。西郷(属人5トン以上)もスルメイカ中心の漁況で、漁獲量、金額はそれぞれ平年の2.1倍、2.2倍と前月に引続き好調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港では1ヶ統1航海あたり漁獲量はほぼ前年並、平年(過去10年平均)並となりました。漁獲の主体はソウハチ、アンコウ、タコ類(ミズダコ主体)でした。今期好調のソウハチは小型主体ながら前年の2.5倍、平年の1.3倍の漁獲がありました。アンコウはほぼ前年並み、平年の2倍の漁獲がありました。

【小型底びき網漁業】

大田地区ではソウハチ、ニギス、和江地区ではソウハチ、アンコウが主に漁獲されました。総漁獲量、1隻1航海あたり漁獲量とも前年を上回りました。好調のソウハチは両地区ともに前年を大きく上回り、約3倍の漁獲がありました。

【定置網漁業】

出雲地区ではスルメイカ、ブリ、ヤリイカ、カタクチイワシなどが多く漁獲され、漁獲量は平年の3.0倍となりました。隠岐地区ではスルメイカ主体で平年の1.2倍の漁獲量となりました。(石見地区では操業なし)

【釣・縄】

石見地区ではブリ、メダイが中心でしたが、漁獲量は平年の7割でした。出雲地区ではブリ、ヤリイカ、スルメイカを主体に漁獲量は平年の1.2倍でした。隠岐地区ではスルメイカが主体で、平年の4割の漁獲となりました。

その他情報 : 1月下旬から県内各地の定置網に入網していたハリセンボン、3月に入ってかなり減少しました。今年ハリセンボンが多かった理由ははっきり分かっていません。

【平成19年2月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マサバ、スルメイカ、マアジ	575トン	162	111	29トン	106	130	○
	西郷	マアジ、マサバ、ブリ、カタクチイワシ	2,764トン	219	125	48トン	144	100	○
	浦郷	マサバ、マアジ、スルメイカ	1,492トン	259	122	35トン	142	108	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	282トン	158	97	1,347 kg	155	161	◎
	西郷	スルメイカ	54トン	1,985	207	323 kg	140	54	○
沖合 底びき網	浜田	ソウハチ、アンコウ、タコ類	339トン	85	87	15トン	93	114	◎
小型 底びき網	大田市	ソウハチ、ニギス	216トン	192	146	726kg	138	123	◎
	和江	ソウハチ、アンコウ	266トン	134	107	696kg	118	101	○
定置網 (大型)	浜田	-	-	-	-	-	-	-	-
	美保関	スルメイカ・ヤリイカ	74トン	159	311	914kg	154	275	◎
	浦郷	スルメイカ	76トン	86	160	2,719kg	61	142	○
釣り・縄	仁摩	メダイ	16トン	118	63	54kg	133	123	○
	大社	ブリ	56トン	222	93	101kg	354	265	◎
	西郷	スルメイカ、メダイ	14トン	274	39	32kg	186	40	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下